

●玉川小学校で防災訓練

地域の皆さんとの防災意識向上を図るため、あきしま・街づくり市民会議・なかがみは、防犯防災部会と地域活動部会が主催して、第13回目の防災訓練を11月24日(土)に玉川小学校の校庭及び、体育館にて実施しました。

当日は、晩秋の好天にめぐまれた青空のもと、絶好の訓練日和となり、消火器取り扱いでは大きな声で「火事だ」と元気よく声を出し、子供も大きい声を出し消火器の取り扱いを体験した。

自治連第2.5.6ブロック内の各自治会会員を中心に地域の方々も多数参加され、前回の玉川小での防災訓練実績を上回る137名の参加人員で行われました。

この防災訓練に先立ち、岩堀吉一会長より挨拶があり、そのあと訓練参加者が4つの班に編成され、班別のリーダーが6つの体験コースにそれぞれに整然と誘導しながら訓練開始となりました。



▲防災旗の下に集まった参加者の皆さん



▲ホースを使った消火訓練

スタンドパイプでは放水要領の説明を受け、消防給水車から給水を受けての放水体験。煙体験では、煙が充満し一寸先も見えなく、身動きが取れない状態になり、煙の恐ろしさを実感することができた。

パーティーションのコースでは、組み立てを説明する運営委員から、間仕切りの必要性、体育館にあるものを利用するなど、避難所の想定される環境を説明された。

組み立て仮設トイレでは運営委員の協力で実際のマンホールで設置、汚物処理、暗闇での使用、臭の問題、流水は、など、担当者に熱心に質問し、実際に体験もできて、とてもよかったといっていました。市の防災倉庫に格納された防災用資材、食糧は、万全で機能性もあり、初めて見る人もいて好評であった。

訓練終了後、昭島消防署昭和出張所の大澤所長から「災害時にはいつも消防署員がいるとは限らない、日頃から地域の方々とのお付き合いと自助、共助の精神を忘れないように」と、また玉川小避難所運営委員会の今川委員長から「避難所での運営と避難者カードの説明と実際には今日体験されたように流れるので理解していただけたかと思う」とそれぞれ講評され訓練を終了した。尚、この防災訓練に協力していただいた自治連第2.5.6ブロック長、自治会長、玉小及び中小学校避難所運営委員、玉川小学校長、副校長並びに消防署昭和出張所、消防第1分団、市防災課の方々に感謝いたします。



▲昭島市備蓄倉庫の見学、毛布8000人分